

徳島大学病院には国立大学病院には少ない脳卒中センターがあり、急性期脳卒中症例を積極的に受け入れています。脳卒中センターは脳外科、神経内科、救急科を中心に運営されていますが、脳卒中の診断と治療選択に関しては放射線診断科も当初から深く関与してきました。これは、全国に先駆けて脳卒中の



徳島大学病院放射線診断科 原田 雅史 教授



徳島大学病院放射線診断科

治療選択の判断に関し、MRI(磁気共鳴画像化装置)の有用性がCT(コンピュータ断層撮影装置)よりも高いことを明らかにして、CTをスキップしてMRIを最初に施行する診断手順を確立したことによります。

当初、MRIでは急性期脳出血は診断できないと信じられていた時期もありますが、当科では拡散強調画像やT2スタースター画像などによって、急性期脳出血のMRI診断能がCTよりも高いことを報告しました。更に拡散強調画像によって新鮮な梗塞範囲の診断を、脳灌流M

R画像によって脳血流低下領域の評価を行い、治療法の選択や予後予測に有用であることも報告しています。

治療までの時間短縮を考えると、MRIが測定できる患者様にはまずMRI検査を行うことが望ましく、MRIを第一選択の画像手法とし、診断の検査手順を作成しました。このような徳島大学方式は、今ではMRIファーストと呼ばれて、採用する脳卒中関連施設も増えてきています。

脳卒中診断 可能ならMRI検査を

徳島大学病院ではMRIの新たな手法を駆使して、脳卒中急性期の治療選択を行い、多くの患者様の予後改善に役立てています。放射線診断科は直接患者様と関わることは少なく、その役割を存しない方も多いと思えますが、黒衣のような立場でしっかりと患者様の健康の維持と病気の治療に貢献していることも知っていただければ、大変うれしく思います。

MRIは音が大きく、窮屈な検査ではありますが、病気の大切な情報を正確に評価できる手法として大変重要な検査ですので、患者様にはご理解いただきご協力賜りますようお願い申し上げます。